

第2回 モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築 WG 議事概要

- ・日 時： 平成30年2月1日(木) 13:30~15:30
- ・場 所： 中央合同庁舎3号館1階共用会議室

- 荷主の立場からは、ピンポイントに何日に出発する便を検索したいということを必ずしも求めている訳ではなくて、何日から何日の間に出発あるいは到着する便としてどのようなものがあるか、幅広く検索出来たほうが、新しいルートの開拓という観点からも使い勝手がよくなると考える。
- コンテナ航路などで、週1、2便しか運航していない場合、当日出発の便で検索をかけても検索にかからない可能性がある。曜日あるいはある程度の期間の幅をもって検索出来るとよいのではないか。
- 検索結果として、運航する曜日や、混載便、冷凍冷蔵便が利用可能といった、その航路や便の特性に関する情報をより多く表示出来た方が利用しやすいのではないか。
- 例えば北海道から九州方面に輸送する場合など、途中で航路を2つ、3つ乗り継いでいるケースもあるので、そういった乗継ぎ便にも対応出来るとよいのではないか。
- 荷主が輸送方法を選ぶ際の判断基準として、リードタイム、コスト、CO2排出量を指標として見ている。リードタイムが長ければそれだけ在庫を抱えることとなりコストが増えるが、コストが多少高くてもCO2排出量が少なければそちらを選択する場合もあるなど、荷主は3つの指標を総合的に判断して選択している。
- (コスト、リードタイム、CO2排出量の優先順位に関し、)海運を使えばCO2排出量は下がるという前提では、在庫をなるべく少なくするという観点から、リードタイムの優先順位が高いという考え方もある。
- 積み荷種別や車種、コンテナの形態等により運賃が異なるので、運賃情報を掲載するのであれば、こうした項目も検索条件として機能に追加したほうが良いのではないか。
- 検索システムを利用して、どのお客様がどの航路にどのくらい興味をもたれているのかといったデータがあると、海運事業者にとって、航路への船舶投入の参考となるのではないか。
- 本システムに参加する会社が増えれば、登録される航路や便情報が蓄積され、システムの利用価値が高まり、さらにより多くの参加者を得ることになる、という好循環になるようなシステムを目指して検討を深めたい。

以上